

図書館・郷土資料館の広場 勾玉づくり・せんべい焼きの様子

4月25日(土)図書館との共催事業が開催され、郷土資料館では勾玉づくり、火おこし体験、せんべい焼き体験を行いました。



勾玉づくり

滑石という石をひたすら削りました。

親子の参加が多く、古代人顔負けのすご腕の方もいました。



せんべい焼き

ボランティアの方の協力により、でんぷんせんべい、クッキー風のせんべいを焼き試食しました。



ふるさと講座・歴史系のお知らせ 幻の町キラクを訪ねる！ ～野付通行屋・番屋跡遺跡～

この地方に残る伝説キラクとは、道内でも珍しい江戸時代の遺跡を訪ねたいと思います。

- 日 時 6月20日(土) 午前9時30分～12時
- 場 所 野付半島(集合場所ー野付半島ネイチャーセンター)
- 定 員 20名(6月19日までに名前・電話番号を電話・FAX・メールにてご連絡ください。)
- その他 ①長靴を必ず持参ください。
②草分け道や海岸を5km歩きます。



↓ スペースの都合により今月号は、ここに発行・連絡先・編集後記がはいります。
裏面もあります。

別海町郷土資料館だより No. 118

発行日 平成21年5月12日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

思い起こせば、去年の今ごろは野付半島のハクチョウの死骸から鳥インフルエンザ、今年は豚に始まり世界で新型インフルエンザの流行、町内の学校は、インフルエンザで学校閉鎖となり、いやな感じです。人ごみに入る時はマスク着用とこんなんで大丈夫でしょうか？(K.I)

シギ・チドリ観察会報告

上西春別中学校教諭 藤井 薫氏(講師)

5月9日(土)に実施した「シギ・チドリ観察会」の報告を講師の藤井薫氏に作成いただきましたので、ご紹介します。

野付半島は全国的にシギチドリの渡来地として有名である。その春のシギチドリのピークとなるのが5月上旬である。今年も2000羽前後のシギチドリが野付半島に渡来している。

5月9日の観察会は、主に野付半島の先端部の干潟で、シギチドリの基本的な識別方法についての観察会とシギチドリの食性調査を参加者全員で行った。まず、シギチドリの識別方法の講習会の方は、識別の基準となるシギ(小型:トウネン、中型:キアシシギ)をじっくり観察することができた。また、野付半島で渡来数の多い、キョウジョシギ、ハマシギ、トウネン、キアシシギの4種を参加全員がじっくり観察する事ができた。また、この日の観察会の目玉となった、セイタカシギの優美な姿を堪能することができました。識別に関しては秋にもさらにレベルアップしたシギの識別講習会を実施する予定です。



(セイタカシギ)



(シギチドリの群れ)

シギチドリの食性調査の方は、2班に分かれてコドラート(50cm×50cmの方形区)の内の表層と泥質内の生物の種類と個体数を調査した。その結果が以下の表の通りであった。

調査地	表層の生物種		泥中の生物種	
コドラート1(水辺近い)	ホソウミニナ(巻貝)	132 個	ゴカイの仲間	16 個体
コドラート2(陸地近い)	ホソウミニナ(巻貝)	255 個		
	微小巻貝	18 個		
平均値	ホソウミニナ	194 個	ゴカイの仲間	8 個体
	微小巻貝	9 個		

(野付先端部の干潟の推定面積) $1200\text{m} \times 60\text{m} = 72000\text{m}^2$

コドラート面積($0.5\text{m} \times 0.5\text{m} = 0.25\text{m}^2$) $\times 4$ で 1m^2 となるので、野付先端部の今回の 1m^2 当りの生物量は以下の通りとなる。

ホソウミニナ $194\text{個} \times 4 = 776\text{個}$
 極小巻貝 $9\text{個} \times 4 = 36\text{個}$
 ゴカイの仲間 $8\text{個} \times 4 = 32\text{個}$

野付先端部干潟の推定生物量
 ホソウミニナ $776 \times 72000 = 55,872,000$
 ゴカイの仲間 $32 \times 72000 = 2,304,000$

今回の観察会は従来型の単なる見るだけの受け身の観察会ではなく、参加者も一歩踏み込んで自然と関わる触一つの方法を体験出来た事は意味深いものがあると思います。また、推定値ではあっても、シギチドリの餌となっていると思われる巻貝やゴカイの生物量を具体的に算出できたことも大変良かったと思います。それにしても、ホソウミニナが沢山あるとは思っていましたが、野付先端部の干潟だけで 五千五百万個以上と言う数値は多いのか少ないのか想像もできませんね。個人的には、シギが長いクチバシで泥の中から引っ張る出してるゴカイが意外に沢山いることが分かって良かったです。また、微小巻貝については種類は同定中です。

5月9日に観察した鳥の種類 アオサギ、トビ、オジロワシ、オオハクチョウ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、マガモ、クロガモ、ビロードキンクロ、タンチョウ、オオジシギ、ハマシギ、キョウジョシギ、トウネン、セイタカシギ、キアシシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ヒバリ、オオジュリン、アオジ、カワラヒワ、ハシボトガラス、ハシボソガラス